

■企画展■

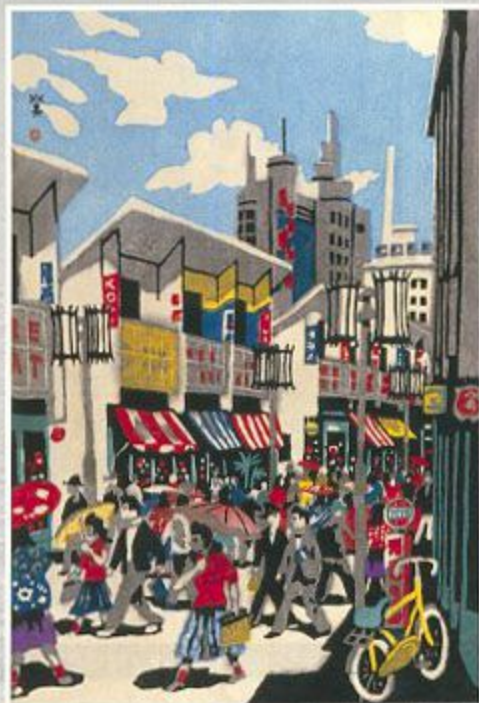
'98 7月2日(木)
~9月6日(日)

同時開催

収蔵作品展Ⅱ (展示室1・2)



小磯良平「二人の少女」1946年 本館蔵



川西 英「元町初夏」1949年 神戸市立博物館蔵

小磯良平と仲間たちを中心に

神戸の洋画・戦後の再出発展

(展示室3)



田村孝之介「海の子」1956年 神戸市蔵

主催/神戸市立小磯記念美術館
開館時間/午前10時~午後5時
(入館は4時30分まで)

休館日/毎週月曜日
(ただし、7/20(土)は開館)、7/21

入館料

	個人	団体(30人以上)
一般	200円	150円
高校・大学生	150円	120円
小学・中学生	100円	70円

〒658-0032
神戸市東灘区向洋町中5-7
TEL (078) 857-6880

神戸市立小磯記念美術館

KOBE CITY KOISO MEMORIAL MUSEUM OF ART

■ 企画展 ■

神戸の洋画 戦後の再出発展

～小磯良平と仲間たちを中心に～

(展示室3)

'98 7月2日(木)
～9月6日(日)

1945(昭和20)年6月15日に第二次世界大戦は終結し、平和が訪れた国内各地で復興への鐘音が響き始めました。美術界においては、1946(昭和21)年3月に文部省主催による第1回日本美術展覧会(日展)が開催されたのをはじめ、各団体の再建・再編や新たな団体の創立が、相次いで行われました。

神戸とその近辺の洋画家たちも、1945年の秋頃から互いの消息を確かめ合うようになります。そして神戸洋画壇再興の狼煙とも言える神戸洋画会が発足したのをはじめ、各団体が次々と名乗りをあげ、特色ある活動を展開してゆくことになりました。

本展では神戸とその近辺の洋画家たちにスポットをあて、小磯良平、田村孝之介、川西英ら10名が、主に1940年代から1950年代にかけて制作した40数点の作品を紹介いたします。彼らの歩みの中に見られる、画壇再興への意気込みをどうぞご覧ください。



梶井一夫「石切り場(C)」1959年 本館蔵



◆交通:JR神戸線住吉駅・西神角谷駅乗り換え、六甲ライナー「アイランド北口」駅下車、西へ徒歩すぐ



小松益喜「終戦直後の居留地」1946年頃 神戸市蔵



角野利治郎「海景」 本館蔵



西村元三朗「気象台」1949年 本館蔵



古家 新「静物」1955年 本館蔵



藤尾隆白郎「残墟 神戸の教会」1947年 個人蔵



伊藤経郎「アトリエの女」 本館蔵

次回展覧会のお知らせ

1998年 9月12日(土) ▶ 11月8日(日)

特別展「没後10年 小磯良平展」

本展は、小磯良平の没後10年を記念して、兵庫県立近代美術館とともに、2つの美術館で展覧会を共同・同時開催する初めての試みです。

第1会場・小磯記念美術館では「小磯芸術の美」として、各時期を代表する作品や資料など約110点を展示します。

また、第2会場・近代美術館では「小磯良平と同時代を生きた画家たち」として、〈西洋体験〉〈彫像〉〈社会と美術〉〈女性像〉の4つのテーマを設定し、それぞれ小磯良平の作品と、さらに同じ問題に取り組んだ画家の作品、あわせて約100点を展示します。異なる2つの展覧会が繰り出す小磯良平の回顧展をお楽しみ下さい。